

慢性疾患児の就労支援に対するMSWの実践

静岡県立こども病院 MSW 城戸貴史

要旨

静岡県立こども病院（以下、こども病院）は、2016（平成 28）年から静岡公共職業安定所（以下、ハローワーク）と業務提携を開始し、今年 5 年目を迎える。ハローワークとの業務提携は、がん患者を支援する医療機関が一般的であり、小児専門病院としては全国初の取り組みである。こども病院で展開する就労支援は年 10 数件とあまり多くないが、切実、かつ、困難なものばかりである。このように、病気のこどもに対する就労支援は、全国的にも先進的な取り組みではあるが、同時に支援方法が確立されていない分野でもある。そのため、日々、様々な困難に直面し、その経験を活かして、よりよい支援に発展できるように試行錯誤を続けている。5 年前に比べると、多少は支援の道筋が出来てきたと感じており、この取り組みを参考に全国に就労支援が広がり始めている。そこで、今回は、こども病院における病気のこどもに対するMSWの就労支援の実践を報告する。

1. 背景と目的

わが国の医療技術の進歩により、数十年前であれば治療困難と言われた小児がんや先天性疾患をもつこどもたちは、その多くが成人を迎えることができるようになった。その影響で、近年は、就労に対するニーズが急速に高まっている。

しかし、MSWがこのニーズに対応しきれていない。その最も大きな要因は、MSWが病気のこどもに対する就労支援の方策を見出していないことである。

そこで、こども病院のMSWが、病気のこどもに対して、どのように就労支援を行っているかを報告し、支援の方策と今後の課題を明らかにする。

2. 方法

2016（平成 28）年から 2020（令和 2）年まで、こども病院におけるハローワークと連携した就労支援の事例に対して、時系列的に整理を行い、どのように変化してきたのかを分析する。

3. 倫理的配慮

事例の使用については、静岡県立こども病院倫理委員会の承認を得ている。また、学会等で発表することを事前に本人及びその家族には同意を得ている。なお、プライバシー保護のため、事例の一部を本人が特定されないかたちで、論旨に影響の生じない程度に変更している。

4. 結果

こども病院には全国から病気のこどもたちが来院してくる。そのため、一般の医療機関のよう

に、住所地を管轄する地元のハローワークとの連携だけではなく、それに加えて、全国のハローワークとの連携も求められる。そのため、患者情報の伝達方法、病気のこどもに対する就労支援などについて、地元のハローワークと全国のハローワークでは認識に差異があり、上手く連携できないこともあった。

その後も就労支援を続けるなかで、上部組織である静岡労働局との協力、就労に関する政策動向や支援制度をMSWも精通すること、事例検討会への参加することなどが連携を推進される要因となった。

ハローワーク側も最初は決まった担当者が支援の中心であったが、実践を積むなかで、若者支援や難病支援に精通する担当者との協力しながら就労支援を行うように変化していった。

5. 今後の課題

医療、保育、保健、教育など、こどもと接する専門職には、未だに就労支援は自分と専門性とは関係ないという認識を持っているものが多い。成人を迎えることができたこどもたちが、その後の人生を充実したものであると感じられるようにするために、今度もいろいろな関係者を巻き込んで病気のこどもの支援の方策を発展させていきたいと考えている。